



エイチ・ツー・オー リテイリング 株式会社

Tsuguの
続きはこちら ▶



「続きが知りたい」「もっと知りたい」そんな方は
さまざまな「Tsuguのこと」をお伝えする
noteをぜひフォローしてください！

発行年月 2026年3月
発行者 エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社
サステナビリティ推進室
〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目13番1号
大阪梅田ツインタワーズ・サウス14階
問い合わせ先 sustainability@h2o-retailing.co.jp

※本書の無断複写・転載を禁じます
※掲載内容は、取材時点の情報に基づきます

Tsuguのこと

地域でともに暮らす私たちが
資源循環をまじめに考えてみた



Tsugu.

エイチ・ツー・オー リテイリング 株式会社



私たちエイチ・ツー・オー リテイリンググループは、
関西を中心に百貨店や食品スーパー、ショッピング
センターなど約500のお店を営むグループです。



阪急OASIS



みんなの街で、みんなと一緒に。
もっとワクワク、もっと優しく！

私たちはこれまで、地域の皆さまに支えられて
成長してきました。だからこそ、皆さまのすぐそ
ばで「困ったときはH2Oのあのお店！」と頼って
もらえる、元気の源のような存在でありたいと
願っています。お買い物や食事、日々の暮らしの
なかで「楽しい!」「おいしい!」と感じるその瞬間
が、実は地球を大切にすることにもつながって
いる……そんなハッピーな連鎖を広げていきた
いんです。背伸びしすぎず、自分たちができるこ
とから一歩ずつ。皆さまと手を取り合って、身近
なところから少しずつ未来を良くしていく。この
冊子では、そんな姿勢で取り組む地域共創活動
「Tsugu.」をご紹介します。



Tsugu.のこと

わたしは、わたしを終着点にしない。
わたしから誰かへ継ぐことで、生まれるつながりがある。

買い物をして、食べる、着る、暮らす。
どこから来たものを手にし、どこへ継いでいくのか。
その一つひとつの選択が、わたしの暮らし方を決めていく。

「わたしで終わり」ではなく、
「わたしから誰かへ」想いを継ぐ、新しい地域の営みを。



Tsugu.のはじまり

「Tsugu.」のルーツは、2021年の秋、私たちのグループの百貨店で役目を終えた什器を販売したオークションです。店では使わなくなっても、必要とする人へ「継ぐ」ことができれば、その人を応援でき、ごみも減る……そんな循環の輪をつくる取り組みを、開催を提案した地域の事業者の方が「Tsugu.」と名づけてくれました。



目指すこと

地域の「ちょっといい未来」を、地域とともに耕す。
衣・食・住。身近な暮らしの場面でのバトンの受け渡しが、
地域に新しいつながりと、心地よい循環を生んでいく。
私たちは「売る」だけではなく、
その先を未来へつなぐ「循環の拠点」でありたいと考えています。

ゆくえがわかる

手放したあと、どこへ続き、
どんな循環につながっているのか。
「見える」「わかる」ことで生まれる
安心と信頼を大切にします。



あるものをいかす

いま地域にある資源や
つながりを編み直す。
その街にしかない
「その地域らしい循環」を、
ひとつずつ形にします。



今も未来も

今も未来も心地よくあるために、
義務感ではなくワクワクを。
今の暮らしを楽しむことが、
そのまま「ちょっといい未来」に
つながっていく。
そんなポジティブなアクションをつくります。



大切にすること

地域に暮らす人も 私たちも

私たちも、この街に暮らす
ひとり。新しい営み、新しい
循環をともに作り出します。



いつもの暮らしになじむ

特別なことではなく、毎日のこと。
無理なく、心地よく、いつのまにか
「当たり前の日常」になっている。
そんな、暮らしになじむ活動を
目指します。



Tsugu.ってなにをしているの？

Tsugu.の暮らしとつながる
プロジェクトを紹介！

フクのツナギ箱

P.16～

「フクのツナギ箱」は、不要衣料品を回収するボックス。大阪府下のグループ店舗に置いています。リセールや原料へのリサイクルなどで、着なくなった服の「続き」、新たな価値を生み出す取り組みです。

食とわ

P.08～

地域の暮らす人とともに「食」を大切にする”わ(循環)”をつくる、それが「食とわ」です。「楽しそう」「おもしろそう」という気持ちを入り口に、気づけば食の未来にもつながっていた。そんな「暮らしのアップデート」を目指しています。

大阪 森の循環促進プロジェクト

P.12～

地域の暮らしの背景にある豊かな森を保つため、地元木材の使用を増やし、森の循環を促進する取り組みを、まずは大阪で。工夫を重ねて進めています。日々の生活の中で木や森を身近に感じるきっかけを創出できたらと考えています。

循環ってなんやねん？ ケンキューカイ・ケン キューショ

P.18～

「循環がある世界にはどんなワクワクが待っているんだろう？」という問いのもと、循環について一緒に考え語り合います。小さなアクションを見つけ、始められるきっかけの場となることを目指しています。

資源循環シンポジウム Tsugu.

P.22～

多様なステークホルダーの協力と連携を通して、生活者が関わりたくなる資源循環のあり方や、具体的なアクションを考える場を目指しています。ともに作り、未来につなぐ循環に向けた新たなパートナーシップ創出の機会でありたいと考えています。



みんなの「わ」が見つかる



「わ」を見つける、広げる、つなげる

食とわは、エイチ・ツー・オー リテイリングから始まった、食と環境をめぐる課題に向き合う共創プロジェクトです。

3つの“わ”(環・輪・話)を手がかりに、小さな循環を生み出す実践を通して、食べることをもう一度見つめ直します。

環



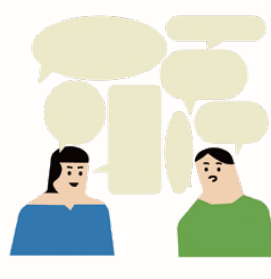
食べ物が捨てずに
活かされ、循環する

輪



作る人、届ける人、
食べる人のつながり

話



暮らしやちょっと先の
未来の語り合い

Question! 食とわ、とは？

食とわは、暮らしの中にある「食をめぐる循環」に、もう一度目を向ける取り組みです。地域の生活する人たち、自治体、事業者、教育機関とともに、取り組みを重ねています。食とわは、関係性から循環を生み出す場でありたいと考えています。

共創パートナーの

平井 巧さん

一般社団法人
フードサルベージ/
株式会社 honshoku



おうちで出た生ごみを、バッグ型のコンポストに入れて混ぜるだけ。これまで「ごみ箱」に捨てていたものが、堆肥という「資源」に変わる。その驚きと手応えを、まずは自分たちの暮らしから体験してみます。



Question!

食とわコンポスト チャレンジの楽しさは？

共創パートナーの

上野 晴人さん

株式会社
地球Labo



堆肥ができるまでの土の変化や仕上がりの違いを比べることで、一緒にやるおもしろさが出てきます。さらに、できた堆肥を活用した体験ができることが笑顔あふれる最高の楽しみです。気軽に、一緒に楽しみましょう。「やってみたい!」と思った方は、この指とまれ!

みんなでやるから楽しい

参加者の9割以上が「満足」「これからも継続したい」と回答。その秘密は、「成果が見えること」、「みんなで共有すること」にあります。

4年連続
環境省
モデル事業

採択年数

700世帯
2000人

参加者

2.6tの
生ごみを
堆肥化

資源化

90%以上
「継続したい」
「満足」

継続意欲

コンポストチャレンジで 生まれた景色

自分で作った堆肥を持って、地域の農園や駅のホーム、動物園へ。川西では駅のホームで野菜を育て、宝塚では子どもたちといちごを育み、枚方では農家さんの想いに触れる。企業と消費者という立場を超えた、「まちの仲間」としての関係を育んでいます。



能勢電鉄 絹延橋駅ホームにある
コミュニティファーム



農家さんと一緒にさつまいもを育てる



宝塚生まれのいちご
「宝交早生(ほうこうわせ)」



五月山動物園では動物たちの
ごはんを堆肥で育てる

食とわ cooking クッキング

おうちの「使いきれない食材」を持ち寄り、みんなで即興料理。捨てられそうだった食材が、アイデア一つで最高のご馳走に。調理で出た野菜の皮はコンポストへ。「もったいない」を「おいしい!」に変える、クリエイティブな食の体験です。



企業の活動から自分たちの物語へ — こんぼすと部 ゆびとまと —

最初はひとりの「やってみたい」という好奇心から。コンポストの楽しさに目覚めた参加者が、自ら「部活動」をスタート。日々の気づきをInstagramやオリジナルの通信物で発信したり、イベント企画も。資源循環シンポジウムTsugu.にも登壇いただきました!

資源循環シンポジウム Tsugu.について ▶ P.22

書籍「食とわ?」

私たちがなにを考え、なにをしているのかを、これからの「食とわ」を一緒につくってくれるあなたにお伝えしたいと思い、したためました。

発行日 2026年1月30日
著者 高橋諒／エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社、坂倉孝雄、松岡大介
スペシャルサンクス こんぼすと部ゆびとまとのみなさん



PDF版は
こちらから



食とわに参加するには



食とわ
コンポスト
チャレンジ

3月
春編

7月
夏編

10月
秋編



食とわ
クッキング

随時開催予定

詳細は
こちらから

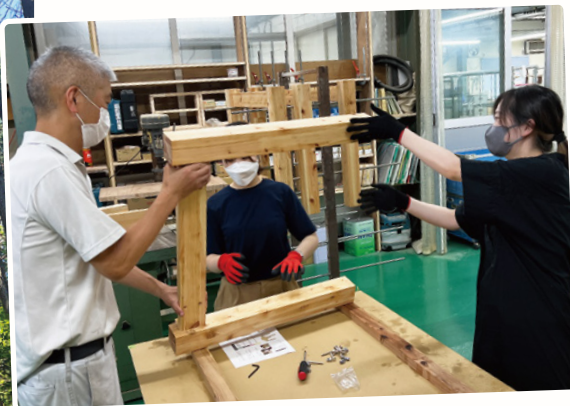
webサイト Instagram



大阪 森の循環促進プロジェクト

大阪は街のイメージが強く、あまり森のイメージはないかもしれません。けれど、実は大阪府の面積の30%が森林なんです。今は青々と元気な森にも見えますが、近年、木が使われる場面が減り木材の利用が減ってしまったため、森林の管理が滞ってきています。このままでは防災などの面でもリスクを抱える状況になってしまうかも。元気な森を次の世代に引き継ぐためにも、私たちは今から取り組むことが重要だと考えています。

え？大阪に森ってあるん？



これまでの取り組み

まずは大阪の森を意識してもらうこと。林業の現場からグループ店舗の売場まで、さまざまな関係者と一緒に、大阪産（もん）の木材を使った売場づくりや商品開発、ワークショップなどを行っています。



阪急うめだ本店8階
「グリーンエイジ」



阪急うめだ本店9階
「祝祭広場」



高槻阪急スクエア1階
「たかつきやきパーク」



ワークショップ

大阪の森の木で
スプーンをつくろう!



2024年からは、暮らしの中で木に触れる機会として、大阪府下の阪急百貨店・阪神百貨店・イズミヤショッピングセンターで大阪の森の木を使ったスプーン製作体験とクイズなどのイベントを実施。2025年の大阪・関西万博期間中は会場内でも実施し、延べ約600本のオリジナルスプーンが生まれました。



「想うベンチ」プロジェクト

「大阪 森の循環促進プロジェクト」の一環として取り組み、大阪・関西万博の運営参加特別プログラム「Co-Design Challenge」に採択されたプロジェクトです。大阪府内のさまざまな事業者・生活者の方と一緒に取り組みました。



想いをメディアで発信する

一般公募したボランティア府民ライター約20名と一緒にプロジェクトのウェブサイト運営。高校生からシニアまで多様な視点で、地域の魅力や万博のテーマでもある「いのち」を伝える取り組みを実施しました。



大阪の木材を使ってベンチをつくる

「樹のためのデザイン」をコンセプトに、大阪の森を訪れることから始まった本プロジェクト。それは、樹と人の関係性を見つめ直す挑戦でもありました。これまで接点の少なかった森林組合・製材所・デザイナーが万博を機に結集。対話を重ね、共創することで、森の未来を想う特別なベンチが誕生しました。



引き継ぎ先のように

1. 引き継ぎ先のひとつ、大阪府堺市の新檜尾台小学校では児童が中心となって引き継ぎ式を準備してくれました。
2. 大阪府豊中市の「とよなか文化幼稚園」の園庭にも移設。園庭にはたくさんの樹々が。
3. 兵庫県伊丹市にある「伊丹森のほいくえん」へは一番大きい6メートルの「想うベンチ」が移設されました。



ベンチを万博会場に。その後は大阪各地域へ

プロジェクトで製作したベンチは大阪・関西万博の会場内でたくさんの来場者の皆さんに座っていただきました。会期終了後は地域の幼稚園、小学校、公園や病院に引き継ぎ、地域の皆さんの元で次のストーリーが生まれています。



活動の軌跡を一冊にまとめた
「プロジェクトブック」



詳細はプロジェクトの
ウェブサイトから



フクのツナギ箱

Circular Fashion Box

あなたの服に
「**続き**」をつくろう

「フクのツナギ箱」は、不要衣料品を回収するボックスです。「あなたの服には、続きがある」をキャッチフレーズに、お客さまにも「服を人から人へツナグ」循環に参加していただくため、阪急・阪神百貨店や、大阪府内のイズミヤショッピングセンターなどに設置しています（一部店舗を除く）。

1 あなたの手



2 回収

お客さまにお持ち込みいただきやすい環境づくりのため、店舗ごとにも工夫をしています。

高槻阪急スクエア



駐車場直結の場所にあるので、重い服も運びやすいとお声をいただいています。

イズミヤショッピングセンター八尾



お客さまからも「買った場所を問わず、不要な服を入れられるので助かる」とのお声があります。

川西阪急スクエア



次なる活用へつながることを知っていただくため、「お預かりした衣料品のその後」を掲出しています。

このロゴのボックスが目印です！

フクのツナギ箱
Circular Fashion Box

4 リセール・リサイクル

さまざまなパートナーとともに、目に見える服の「続き」を生む循環を目指しています。

リセール Resale



古着屋などの販売

リサイクル Recycle



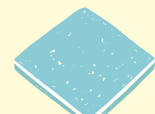
ウェス原料
(工場用雑巾)



反毛原料
(自動車内装材など)



再生原料
(ウール、ポリエステルなど)



リサイクル建材
(内装材、床材など)

3 仕分け

集まった衣料品は、大阪府内の回収・選別工場へ。古着としてリセール(再販)するもの、新たな原料にリサイクルするものに仕分けして、服の「続き」をつくっていきます。



写真提供: ファイバーシーディーエム株式会社



衣類回収についてもっと知っていただくため、2025年11月、大阪府や府内の自治体、他の企業など賛同していただくパートナーと「サステナブルファッション・プラットフォーム協議会」を設立しました。一緒に、「みんなが微笑む『すてない』未来」を目指して、使用済み衣類回収システムづくりに臨んでいます。

大阪府内の回収拠点は
こちらから



循環って なんや? ねん? ケンキューカイ

どんなケンキューカイやねん?

循環ってなんやねん? ケンキューカイは、循環やサステナブルな社会・取り組みについて学ぶ連続型の勉強会です。会社員も、行政職員も、学生も、循環に関わっていない人も、誰でも参加できるのが特徴。DAY5の「ケンキューショ」イベントをみんなで企画するために、学びを深めました。

DAY 1

淡路島の耕作放棄地を開墾しながら、地球と組織の未来を考える!?



DAY 3



FabCafe Osakaは面白い地下があります。ぜひ行って見て。

DAY 2



リジェネラティブデザイン、噛まずに言うのが大変です。

DAY 4



実はそれぞれのケンキューイン(参加者)も、循環の取り組みを。お互いに学び合う時間を取りました。

DAY 5

ケンキューインの皆さんと一緒に循環にまつわるイベントを企画・実施しました!



DAY 6



終了後にはみんなで振り返りも。



ケンキューカイの流れ

インプットとアウトプットを繰り返しながら学んでいくステップ。「ケンキューイン(参加者)」同士での学び合いの場面も。

STEP 1

インプット

STEP 2

アウトプット

STEP 3

自分たちでやってみる

みんなで作ったDAY5

循環ってなんやねん？

ケンキューショ vol.2

イベントレポート！

循環ってなんやねん？ケンキューショ（ケンキューカイと似てる）は、1日で循環にまつわるセッションや展示を体験できる場です。さまざまな角度から循環をケンキュー（研究）・タンキュー（探求）し、理解を深めていきます。

program 01 映画を通じて考える
価値ってなんやねん？



数で測れるモノと測れないモノ。価値ってなんだろう、対価ってなんだろう、を考える時間でした。お金（地域通貨）を作るプロセスに地域の人を巻き込む造幣ワークショップという試みも。



program 02 ごみを通してわくわくする
社会って、どんな社会？



まず、製造や物流、建設などモノを世に送り出す「動脈産業」と、廃棄物処理やリサイクルなどモノを回収して再供給する「静脈産業」を知ることからスタートするのがいいかも？

program 03 「醸す」って
なんなん？



コントロールではなく、見守り、委ねていく。それは自分と他者を信頼するあり方。「醸す」ということや、先代からの継承には、そうしたスタンスが重要かもしれません。

program 04 循環ってなんやねん？
座談会 vol.2



循環には、返すということだけではなく、その先に送るという考え方が重要。もらったものを次につないでいくという「自然」を、わたしたちは再構築できるか？という問いがあったように思います。

program 05 展示・ワークショップも
盛りだくさんでした！



ケンキューイン
(参加者)に
聞いてみた！

参加してみて
どうやったん？



同じ軸を持って
活動している
他地域の方との
つながりができた！

伊東 莉加子さん

孤独を防ぐために
必要なのは、
循環の輪に
入ることなのかも。



中尾 英理さん

詳細は
noteから



資源循環 シンポジウム Tsugu.

「わたしから誰かへ」
みんなで考える共創の場

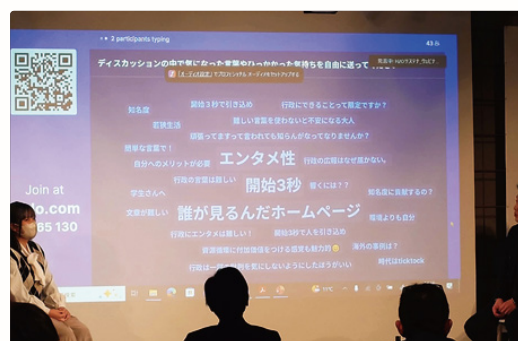
「ごみ」を「資源」として未来につなぐ資源循環社会の実現には、生活者一人ひとりが暮らしのなかで意識し、考え、行動することが大切です。2024年から年に1回開催しているこのシンポジウムには、企業や行政だけでなく、大学の先生や学生、そして地域に暮らす生活者も登壇します。



石川 雅紀さん
愛知大学 副学長／
神戸大学 名誉教授



笠原 理恵さん
株式会社高島屋
企画本部経営企画部
ESG推進室長



一方的な発表ではなく、トークセッションなどを通して、身近な「衣・食・住」に直結する事例をシェアします。みんなで新しいアクションのヒントや、一緒に取り組む仲間を見つけ出すことができる場です。

私たちの サステナビリティ

グループ 基本理念	地域住民への生活モデルの提供を通して、 地域社会になくてはならない存在であり続けること
グループ ビジョン	「楽しい」「うれしい」「おいしい」の価値創造を通じ、 お客さまの心を豊かにする暮らしの元気パートナー
サステナビリティ 経営方針	私たちはこれまで地域社会から多くの恩恵を受けることで 成長してきました。今後も地域の一員として、 地域社会の健全で持続的な発展に貢献します。
重点 テーマ	1 地域の「絆」を 深める 2 地域の 「子どもたち」を 育む 3 豊かな 「地域の自然」を 守り、引き継ぐ
基本 テーマ	4 お客さま・ステークホルダー からの「信頼」に応える 5 従業員の「働きがい」を 高める

私たちは地域の一員として、
地域社会の健全で持続的な発展
に貢献したいと考えています。

エイチ・ツー・オー リテイリング
サステナビリティ推進室

